

特集：アクティブ・ラーニングと図書館－高校を中心に

次期学習指導要領と連動した大学入試改革の動向

— 主体的・対話的で深い学びと図書館 —

前田 稔

記述式試験の問題イメージ

大学入学試験・高校教育・大学教育の三者を一体的に刷新する、高大接続と呼ばれる教育改革の動向が社会的関心を集めている。特に注目を集めているのは、大学入学センター試験のリニューアルである。議論の当初は大規模な改革が目指されていた。コンピュータ回答方式（CBT）、難易度を予め設定した問題（IRT）、高校段階での基礎検査・診断結果の利用、出題・採点の民間委託、段階別評価、人工知能の採点が示されていたが、これらは大幅に先送りされた。当面は、記憶の再現に偏りがちな多肢選択式の出題に加えて、科目横断的・総合的に思考力・判断力・表現力を評価する記述式問題を国語と数学で導入する計画が進んでいるが、その実像はほとんど明かされていない。大学入試が変わる2018年4月入学の高校1年生に十分な指導ができるのかという不安の声が高校現場から上がっている。僅かな手がかりは、文部科学省が2015年12月に4種類の出題例を公表した『『大学入学希望者学力評価テスト（仮称）』で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たたき台】』である。〈例1〉は、3種の統計が異なる原因を高校生同士が議論する国語問題、〈例2〉は3名の小説家や作曲家の創作姿勢の共通パターンを分析し、状況や生ずる問題を組み合わせ、解決法を記述する国語問題、〈例3〉は企画を提案する国語問題、〈例4〉は月が大きく見える自然現象の測定を、校庭に図形を描くことに応用する数学問題となっている。

そして、図書館界にとって注目に値するのは、

〈例3〉が今後の公立図書館が果たすべき役割について論じたうえで、図書館職員の立場で、効果的な企画を提案する出題となっている点だろう。

【問題イメージ〈例3〉】

（公立図書館に関し、その現状と課題の他、若者の自立・社会参画支援を推進する場、家庭教育支援のための場、地域の人たちの対話や交流の場としての試みなど今後の公立図書館の可能性等について記した1,400字程度の新聞記事を読んで答える問題）

問 今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。次の1～3の条件に従って書きなさい。

条件1 200字以上、300字以内で書くこと（句読点を含む）。

条件2 解答は2段落構成とすること。第1段落には、今後の公立図書館が果たすべき役割として、あなたが重要と思うものについて書くこと。その際、文中に示された公立図書館の今後の可能性のうち、今、あなたが重要と考える事項を一つ取り上げ、本文中の言葉を用いて書くこと。第2段落には、仮にあなたが図書館職員だとした場合、図書館において、第1段落で解答した姿を実現するために、どのような企画を提案したいかを記すこと。その際、企画の内容に加えて企画の効果についても記すこと。

条件3 本文中から引用した言葉には、かぎ括弧（「」）を付けること。

〈解答例〉

今後の公立図書館は、「地域の人たちの対話や交流